

地震の基礎知識



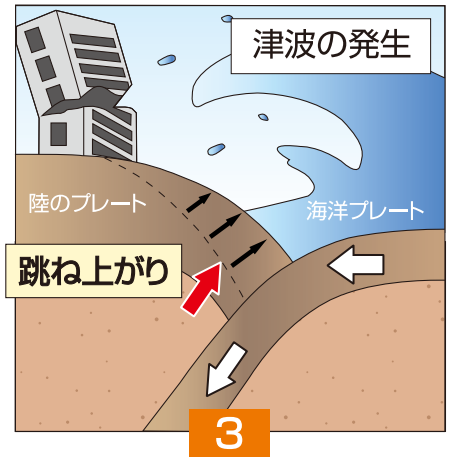
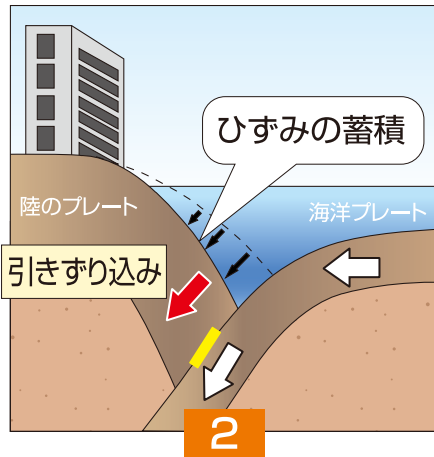
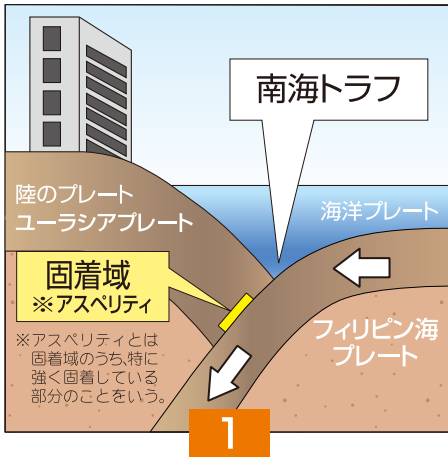
▼大規模地震 今後30年の発生確率と主な被害予想



主な被害想定結果				
想定項目	東海地震	東南海地震	東海・東南海地震	養老・桑名・四日市断層帯
全壊件数	13,000棟 (予想)	62,000棟 (予想)	100,000棟 (予想)	9,700棟 (予想)
火災	2,400棟 (予想)	15,000棟 (予想)	49,000棟 (予想)	70棟 (予想)
人的被害	13,270人 (予想)	48,300人 (予想)	68,400人 (予想)	4,070人 (予想)

「愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査報告書(平成15年3月作成)」による
平成24年1月1日現在

▼海溝型地震 発生のしくみ



海洋プレート(フィリピン海プレート)が陸のプレート(ユーラシアプレート)の方へ移動し、その下へ潜り込む。

陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。

ひずみはその限界に達したとき、陸のプレートが跳ね上がり、海溝型地震が発生する。その際、津波も発生する。

気象庁震度階級

震度5弱



大半の人が恐怖を覚え、物につかまらなさと感じる。食器類や本が棚から落ちたり、家具が移動することがある。

震度5強



物につかまらなさと歩くことが難しい。固定していない家具や補強していないブロック塀が倒れることがある。

震度6弱



立っていることが困難になる。固定していない家具が移動したり、倒れたりする。耐震性の低い木造建築は傾いたりすることがある。

震度6強



はわないと動くことができない。固定していない家具の多くが倒れる。耐震性の低い木造建築は倒れる物が多くなる。地割れが発生することもある。

震度7



耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物では、倒れる物が多くなる。耐震性の高い木造建築でも傾くことがある。

※震度は、震源からの距離や地盤の状態によって異なる各地点の揺れの強さ